

P1 全体総括 進捗ハイライト

昨年 5 月に発表した「中期経営計画 2024」の進捗についてご説明いたします。

はじめに全体総括です。

事業環境は、半導体不足や原材料高騰、地政学リスクの高まりなど、中計策定時の想定から大きく変化しました。それに対し当社は、フレキシブルな生産、コストダウン施策、製品価格の見直し等に取り組み、インパクトの軽減に努めております。

このような環境下にあっても、中計で掲げた中長期施策は着実に実施しております。

それぞれの詳細は後ほど説明いたします。

P2 中計業績目標

業績目標について説明いたします。

中計初年度にあたる 2022 年 3 月期の業績は売上高 2 兆 5,143 億円、営業利益 1,872 億円となり、中計初年度の目標を達成いたしました。

今後も売上高は拡大傾向を見込んでいますが、資材費・物流費等の高騰のため、収益的には厳しくなることが予想されます。

このような環境ですが、2024 年 3 月期の中期業績目標は維持します。変化するコスト構造への柔軟な対応、UD トラックスとのシナジー効果の具現化、LCV 事業の強化、新型小型トラックの国内投入などの取り組みを着実に進めることにより、中期業績目標の達成を目指します。

P3 事業拡大・収益向上の施策（中計期間中）

個々の取り組みについて、中計で掲げた 3 本の柱に沿って説明いたします。

まず「既存事業の拡大・収益向上の施策」です。

中計期間中の収益に寄与する取り組みとして、UD トラックスといすゞの相互シナジーの具現化に努めております。

かねてより、UD ブランドの継続と、マルチブランド体制での大型車拡販を前提としておりましたが、商品におけるボルボグループとの協業第一弾として、2023 年を目途に、商品力を強化した新型トラクタヘッドをいすゞ・UD の両チャネルに投入いたします。

また、販売面でもいすゞ・UD の協働を進めており、国内営業本部を 5 月から新本社に集約したことを皮切りに、海外営業本部も順次連携を開始いたします。

UD トラックスの体質も強化されつつあり、いすゞとの共同輸送や共通部品購買による効率化、品質向上などの効果が出ております。

LCV 事業では、世界 3 拠点の役割分担が進展いたしました。

まず、新型モデルは、ハイエンドユーザに好評であり、マザー工場であるタイの完成車生産能力を、年間 34 万台に増強いたしました。

インドは、ワークホース用途モデルの輸出拠点として、国産化をさらに進めるとともに、中近東への輸出体制を強化いたしました。

南アフリカは、新型モデルの生産を開始することで、新型と従前モデルの並行生産が始まっています。

3 拠点を最大限活用し、LCV 事業を拡大してまいります。

P4 事業拡大・収益向上の施策（将来）

次に、将来の収益に繋がる取り組みとして、ボルボグループとの先進技術領域での協業も見据えた、いすゞ・UD 共通の大型車の開発を開始いたしました。

中・小型車は、豊富な商品バリエーションを取り揃えて、今年度中のフルモデルチェンジを予定しています。

この新型車には、バッテリーEV も設定いたします。

日本国内市場を皮切りに、いすゞ・UD 両チャネルを通じて、順次海外にも展開します。

この新型車には、「I-MACS」と呼ばれるいすゞのモジュラー設計コンセプトを取り入れており、国・地域のニーズや動力源に合わせたフレキシブルな商品開発に対応してまいります。

P5 カーボンニュートラル戦略(1)

次に、2 本目の柱「イノベーションの基軸」です。

まず、カーボンニュートラル戦略について説明します。

当初の計画に沿って、カーボンニュートラルに取り組んでおります。

2021 年 6 月に、日本政府がグリーン成長戦略を具体化したことで、日本の商用車カーボンニュートラル目標は、明確になりました。

当社は、その達成に向け、カーボンニュートラル戦略に引き続き取り組みます。

具体的な取組みは、次のページで説明します。

P6 カーボンニュートラル戦略(2)

先述のとおり、今年度中に小型バッテリーEV を国内市場に投入し、米国・欧州にも順次展開します。

国内に於いては、普通免許対応の車型も、順次発売いたします。

また、2024 年の市場投入を目標に、大型路線バッテリーEV バスの開発を進めています。

なお、昨年 10 月には国内 CV メーカーとして初の大型 LNGトラック、「ギガ LNG 車」を発売いたしました。

そのほか、先行開発や実証実験の対象として、小型 FCV、大型 FCV、大型路線 FCV バス、電動ピックアップトラック、北米中型バッテリーEV、等に取り組んでいます。

引き続き、技術の選択肢は狭めず、様々な技術の可能性を検証します。

P7 進化する物流へ商用車メーカーとして貢献

次に、コネクテッドと自動運転について説明します。

コネクテッド領域では、本年 10 月に、いすゞ・富士通のサービスを統合した、「商用車コネクテッド情報プラットフォーム」の提供を開始いたします。

関連して、UDトラックスは、2023年1月より、運行管理サービス「MIMAMORI」の、運用トライアルを開始いたします。

また、引き続き、CJPTを通じて、トヨタ・モビリティ・サービス・プラットフォームをベースとした、広範なデータプラットフォームとの連携も推進してまいります。

自動運転領域では、省人効果・安全性・実現性の高いユースケースから、優先的に取り組む方針です。

昨年度より、福岡空港内で、自動運転バスの実証実験を開始いたしました。

また、UDトラックスは、神戸製鋼所と共同で、製鉄所内に於けるレベル4自動運転の実証実験を開始いたします。

P8 ESGを視点とした経営への進化

最後に、3つめの柱、「ESGを視点とした経営への進化」について説明します。

当社は、経営風土の転換に向けて各種施策を実行するとともに、イノベーションの源泉となる社内外のコミュニケーション促進に努めています。

昨年度より、人材基盤の強化を目的として、「多様性」をコンセプトとする人事制度改革に着手いたしました。

また、業界内コミュニケーション促進のため、各種取組を行っており、これまでに、アライアンス先とのエンジニア交流や、UDトラックスのダイバーシティとの融合に取り組んでいます。

昨年度は、ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進活動「VOIS」を、ボルボグループと共同で結成しました。

今年度は、様々な業種が集まる横浜へ本社を移転しましたので、異業種間コミュニケーションを促進するとともに、最新のオフィス設備・IT環境を活用して、海外拠点とのコミュニケーションを強化してまいります。

説明は以上です。